

新品種鶴見キュウリについて

西村和明・小田原長治・飛高義雄
(大分県温泉熱利用農業研究所)NISIMURA, K., ODAWARA, C. and HITAKA, Y.
On the New Variety of Cucumber "TURUMI"

1. まえがき

園芸試験場久留米支場育成の F_1 長日落合は、高温長日下においても節成性の高い落合系の品種であるが、抑制や促成などの低温下の作型には必ずしも適種でない。したがって、落合系でビニール抑制や露地抑制栽培において育苗初期の暑さに強く、長日でも節成性が高く、さらに、低温期になつても生産力の高い品種の育種に着手し、ほぼ目的に近い品種を F_1 で育成したので報告する。

2. 育成の経過

1955年から夏節成と日向2号を8月下～9月初旬にまき、夏節成については低温伸長性や着果性が高く、果実は肩落ちが少なく果形の優れた長短2系統を選抜した。一方、日向2号は育苗初期の耐暑性や定植後の草勢が強く、果実は長形で形状がよく、果皮の色や肉質が優れ、さらに、低位節から節成性の高い系統を選抜した。

1959年 F_1 検定のため選抜系の夏節成と日向2号の相互交配を行い、長形の夏節成×日向2号が優れていることを認め、当研究所の所在地名をとつて「鶴見」と命名した。

3. 特性の概要

草姿は小ぶりで茎はやや細く、葉は小形で葉内は厚い、節間はやや短かく、分枝性は主枝の節成性が高いため弱く3～4本にすぎない。これらのことから室内の密植栽培に適する。

果実は落合形で果長は開花後7～8日で21cm余り、肩の張りや尻の詰りは適度で形状がよく、黒いぼの緑果でブルームをもち、肉質は脆弱で食味も優れている。

移植性は夏節成の血統をひいて落合には及ばない。したがって、鉢育苗で2.5～3.5枚時定植する。

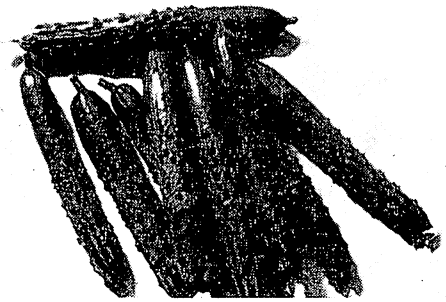
日長や温度と雌花の着生関係は、高温長日でも母の夏節成は雌花の着生が特によく、一方、父の日向2

号も他の落合系に比べて優れているため、 F_1 の「鶴見」は8月中下旬まきでも雌花を6～7節から着生し、以後節成性がはなはだ高い。

4. むすび

「鶴見」は暖地の露地やビニールハウスの抑制栽培で8月下～9月初旬まきが本命であるが、育苗期の短日操作を必要としない育苗で早熟、トンネル早熟、春まき直播、高冷地栽培にも適する。

第1図 果 実



第2図 結果の状況

